

梅田地区モデル事業の取組み状況

企画及び事業一覧

企画（大分類）	企画（中分類）	実施事業（16事業）	頁
企画1 高齢者の居場所を 拠点とした取組み	1-1 居場所の開設	【1】つながり処うめだ	P3
企画2 高齢者出張相談窓 口の展開	2-1 町会・自治会への 出張相談窓口の展 開	【2】足立成和信用金庫中央支店におけ るセンター周知及び出張相談	P4
		【3】住区まつりにおける健康相談（体 力測定・栄養相談など）の実施	P5
		【4】町会、自治会秋の交通安全週間の 取組み及び町会イベントへの参加	P6
企画3 認知症の方への取 組み	3-1 子どもからの認知 症サポーター養成	【5】梅島第二小学校での認知症サポー ター養成講座の実施	P7
	3-2 認知症への理解促 進	【6】劇団「うめはる」による認知症の 事例紹介	P8
		【7】モスバーガーカリブ梅島店におけ る認知症カフェの開催	P9
3-3 高齢者声かけ訓練 の実施	【8】梅田八丁目アパートにおける高齢 者声かけ訓練の実施	P10	
企画4 終末期・看取りの支 援	4-1 出前講座の実施	【9】ACP関連イベントの実施 ※ACP…アドバンスケアプランニング 人生の終末期を考える取組	P11
企画5 ICTを活用した 医療と介護の情報 共有	5-1 ICTツールの活 用検討	【10】MCSを活用した情報共有の検証 実施 ※MCS…メディカルケアステーション 非公開型医療介護SNS	P12

企画（大分類）	企画（中分類）	実施事業（16事業）	頁
企画6 地域のちからの活用による見守りの強化	6-1 「わがまちの孤立ゼロプロジェクト」の重点実施	【11】見守り活動実施の重点的な働きかけと梅田東町自治会による住民主体の定期パトロールの実施	P13
	6-2 町会・自治会による元気応援ポイント事業の運用検討	【令和2年度に実施予定】	—
	6-3 介護施設などの高齢者と地域との交流	【12】地域の医療・介護機関が主催するイベントへの地域のふれあいサロンの参加	P14
		【13】中部ひまわり保育園との交流会	P15
	7-1 高齢者見守りツールの活用	【令和2年度に実施予定】	—
企画7 その他の取組み	7-2 栄養相談	【14】「シルバーふれあい食堂」の実施（高齢者の孤食対策）	P16
	7-3 住宅相談	【15】居場所における区職員による住宅相談の実施	P17
	7-4 広報チラシ作成	【16】梅田地区モデル事業広報「65才からのいきいきうめだ暮らし」の作成	P18

【ビジョンにおける18の取り組みの柱】

自立期		要支援・軽度期		中重度・終末期		
予	①健康の維持	予	⑧在宅生活を支える支援	予	⑭地域とのつながりの維持	
	②孤立の防止		⑨安心の向上や楽しみの持続		医	⑮本人の意思に基づく専門的支援
	③地域での活躍		⑩医療と介護の連携促進			⑯看取りを視野に入れた対応の推進
	④おいへの備え		⑪人材の確保・育成			⑰支援の質を高める連携の強化
医	⑤異変への気づき	住	⑫安定的な介護サービスの提供	住	⑱施設ニーズにも対応した住環境の確保	
	⑥専門機関とのつながり		⑬安心できる住まいの確保			
住	⑦将来の住まいへの備え					

構成要素：「予」…予防・生活支援／「医」…医療・介護／「住」…住まい

企画1 高齢者の居場所を拠点とした取組み

1-1 居場所の開設 【1】つながり処うめだ

ビジョン	心身状態	自立期						要支援・軽度期						中重度・終末期					
との関係	18の柱	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱

①事業概要

- 地域包括支援センター関原の運営により、地域の高齢者が自由に集える居場所を開設（毎週月・金曜日（13時から15時まで）会場は包括会議室）
- 居場所の開設に加えて、毎回、地域の医療・介護の専門職や地域住民などを講師としたイベントを開催
- 居場所を活用して区住宅課による住宅相談などの相談事業も実施

【実施実績】実施回数：72回 参加者数：1,139名

講師数（事業者、住民）：22講師 運営サポーター数：8名

オープニングセレモニー



手話で手遊び



②担い手の役割

区民・地域	運営サポーターとして当日の会場設営や受付などを担当
専門機関	各イベントの講師として参加
包括・区	全体調整、イベント内容の作成、事業周知

- 包括によっては、会場の確保が難しい
→地域学習センターなど、包括の近隣の公共施設の活用を検討する

⑤課題を踏まえた梅田地区の今後の展開

- 包括が運営していた居場所を地域住民の自主活動による「ふれあいサロン（社協）」として登録し、活動を継続
- 居場所で活動した講師の活用や活躍の場づくりを検討

③効果

- 高齢者が自由に集える居場所を定期的に確保することができた
- 地域の担い手となる医療・介護の専門職や様々な特技を持つ地域住民などを把握し、顔の見える関係を構築できた

④課題と今後の方向性

- 企画や講師の調整などに人員を割く必要があり、包括の負担が大きい
→高齢者支援ニーズの把握・つなぎの場として、包括が関与しながら、地域住民の自主活動による運営を目指す

⑥課題を踏まえた他地区での展開

- 令和2年度から包括に配置した生活支援コーディネーターを活用して地域の担い手となる人材を掘り起こす
- 把握した人材を活用して住民主体の新たな居場所を立ち上げる
- 包括の継続的な支援により地域の居場所に通う高齢者同士のつながりを確保する

企画2 高齢者出張相談窓口の展開

2-1 町会・自治会への出張相談窓口の展開

【2】足立成和信用金庫中央支店におけるセンター周知及び出張相談

ビジョン	心身状態	自立期						要支援・軽度期						中重度・終末期					
との関係	18の柱	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱

①事業概要

○足立成和信用金庫中央支店のイベントに地域包括支援センター関原の職員が参加し、来店者への声かけ、包括パンフレットや事業チラシの配布を実施

○来店した高齢者への相談事業も実施

【実施実績】実施回数：2回（年金感謝デー（6月）及びお客様感謝デー（12月））

周知用ポケットティッシュ配布数：450個



会場の様子



②担い手の役割

専門機関	足立成和信用金庫によるイベント機会及び会場の提供
包括・区	事業周知活動、相談事業

③効果

○高齢者だけでなく金融機関を利用する若い世代の方にも包括の活動を周知することができた

○包括以外の場所で、出張相談を実施することができた

○事業実施後、足立成和信用金庫から困り事を抱えた高齢者の情報提供があるなど、地域の関係機関として良好な関係を築くことができた

④課題と今後の方向性

○足立成和信用金庫が協力的であり、事業実施にあたって支障となる大きな課題はなかったが、実施回数が増えると包括の負担となる

→来店者が多いイベント開催時をメインに、事業を実施する

⑤課題を踏まえた梅田地区の今後の展開

○継続実施

⑥課題を踏まえた他地区での展開

○モデル事業の取組みを周知し、他地区においても包括連携協定を結んでいる足立成和信用金庫との連携事業の実施を促していく

○足立成和信用金庫以外の地域に根差した活動をしている地元企業などとの関係性を活かした連携事業も検討していく

企画2 高齢者出張相談窓口の展開

2-1 町会・自治会への出張相談窓口の展開

【3】住区まつりにおける健康相談（体力測定・栄養相談など）の実施

ビジョン	心身状態	自立期						要支援・軽度期						中重度・終末期					
との関係	18の柱	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱

①事業概要

- 梅田住区まつりの会場で健康相談会を開催
- 多職種と連携し、理学療法士・作業療法士による体力測定、栄養士による栄養相談、柔道整復師による体の痛み相談を実施
(例年は、地域包括支援センター関原の職員による相談会を実施)

【実施実績】参加者数：157名 専門職数：22名

立ち上がりテスト



栄養相談



②担い手の役割

区民・地域	絆のあんしん協力員が会場設営や受付などを担当
専門機関	多職種の専門職22名が個別相談を実施
包括区	全体調整、事業周知

- 年1回のイベントでの実施であるため、継続的に自身の体力やフレイル予防に向けた取組みの成果を知ることができない

→令和2年度から介護予防事業として実施する「高齢者体力測定会」への参加につなげていく

③効果

- 参加者が自身の体力を知り、必要な食事・栄養などについての知識を得るとともに、健康について考えるきっかけとなった
- 同一会場で、多職種による相談会を実施することで、専門機関同士のつながりをつくることができた

⑤課題を踏まえた梅田地区の今後の展開

- 専門職との協力体制により、継続実施

⑥課題を踏まえた他地区での展開

- 健康相談事業のモデルケースとして各包括や専門機関に周知していく
- フレイル予防に取り組む高齢者に対して、区内5ブロックで実施する「高齢者体力測定会」への参加を促していく

④課題と今後の方向性

- 専門職による相談が必要となる
→地域の専門職と連携して事業を実施する

企画2 高齢者出張相談窓口の展開

2-1 町会・自治会への出張相談窓口の展開

【4】町会、自治会秋の交通安全週間の取組み及び町会イベントへの参加

ビジョン	心身状態	自立期							要支援・軽度期						中重度・終末期				
との関係	18の柱	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱

①事業概要

- 秋の交通安全週間で一緒にテントに入り高齢者への声かけ、役員との顔合わせ及び相談会を実施
- 自治会の夏祭りや町会の餅つきに参加し、包括の連絡先入りテッシュを配布するなど、周知活動を実施

【実施実績】実施回数：秋の交通安全 3町会 夏祭り 3町会 餅つき 2町会



餅つき大会の会場
で高齢者へ声かけ



②担い手の役割

区民・地域	参加機会の提供
包括・区	日程調整、事業参加

③効果

- 秋の交通安全週間では、一緒にテントに入り会話をするため、地域情報の収集や高齢者の相談ができた
- 餅つきや夏祭りには、相当の来場者がくるため、包括の宣伝ができた
- 町会のイベントに参加することで、顔の見える関係を構築することができた

④課題と今後の方向性

- 町会・自治会の意向確認や参加イベントの日程調整が必要となる
- 地区連絡協議会などの会合に参加し、意向確認などのアンケートを実施する

⑤課題を踏まえた梅田地区の今後の展開

- 町会・自治会イベントなどへの参加を継続し、包括の周知活動を引き続き実施

⑥課題を踏まえた他地区での展開

- 梅田地区における取組みをモデルケースとし、町会・自治会のイベントで高齢者への声かけや包括の周知活動の実施を促すことで、包括と地域とのつながりを確保していく

企画3 認知症の方への取組み

3-1 子どもからの認知症サポーター養成

【5】梅島第二小学校での認知症サポーター養成講座の実施

ビジョン	心身状態	自立期						要支援・軽度期						中重度・終末期					
との関係	18の柱	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱

①事業概要

○梅島第二小学校の生徒（5年生）を対象に、道徳の授業の一環として、認知症サポーター養成講座を実施

○講座を学校公開授業として実施することで、保護者や地域住民も参加

【実施実績】受講者数：児童59名、保護者6名、地域住民6名

授業の様子



保護者への包括周知



②担い手の役割

区民・地域	民生・児童委員合同会長が打合せに参加
包括・区	全体調整、講座運営、事業周知

→子どもの頃から認知症への理解が重要であることを説明し、学校での養成講座の開催を調整していく

⑤課題を踏まえた梅田地区の今後の展開

○定期開催を目指し、2年度に学校長との調整を実施予定

③効果

○小学校で養成講座を実施したことで、子どもの頃から高齢者のこと、認知症の症状や認知症になった人の気持ちの理解を深め、支援の大切さを学ぶ機会をつくることができた

○保護者に対して、親の介護や介護予防の相談ができる地域包括支援センターが各地域にあることを周知することができた

⑥課題を踏まえた他地区での展開

○モデル事業のアンケート結果を活用し、養成講座実施の効果を検証したうえで、学校と実施に向けた調整をしていく

○小学生が参加できる「親子で認知症サポーター養成講座」を継続実施していく

○学校での開催が難しい場合は、地域の子どもたちが多く集まる場での開催を検討していく

④課題と今後の方向性

○授業の一環として養成講座を実施するため、学校との調整が必要となる

○授業時間が限られているため、学校の負担が大きい

企画3 認知症の方への取組み

3-2 認知症への理解促進

【6】劇団「うめはる」による認知症の事例紹介

ビジョン	心身状態	自立期						要支援・軽度期						中重度・終末期					
との関係	18の柱	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱

①事業概要

○高齢者の劇団サロンが認知症サポーター養成講座の内容の一つとして、認知症の方とその家族の話をもとに寸劇で披露

【実施実績】実施回数：認知症寸劇10回 人生会議寸劇1回

台本の読み合わせ



人生会議の寸劇



②担い手の役割

区民・地域	劇団サロンとして活動
包括・区	サロンの立ち上げ支援、台本の作成、イベントとのマッチング

⑤課題を踏まえた梅田地区の今後の展開

- 認知症サポーター養成講座にて、認知症の寸劇を継続披露
- 新たな内容の寸劇（消費者被害の寸劇（オレオレ詐欺や訪問販売など））に挑戦予定

③効果

- 認知症の方への対応の仕方を、良い例、悪い例として寸劇で披露することで、より具体的に分かりやすく説明できた
- 養成講座やイベントでの活動が劇団サロンメンバーにとってのやりがいとなっている

⑥課題を踏まえた他地区での展開

- 劇団「うめはる」の活動を周知し、劇団に限らず他地区における地域課題解決に向けた取組み団体との活動を拡げていく

④課題と今後の方向性

- 劇団サロンの活動を継続させるためには、発表の場となるイベントとのマッチングが必要となる
- 地域課題をテーマとしたレパトリーを増やし、活動の幅を拡げていくとともに、他地区の活動ともつなげていく

企画3 認知症の方への取組み

3-2 認知症への理解促進

【7】モスバーガーカリブ梅島店における認知症カフェの開催

ビジョン	心身状態	自立期						要支援・軽度期						中重度・終末期					
との関係	18の柱	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱

①事業概要

- モスバーガーカリブ梅島店にて「認知症カフェ」を開催
(従来は、地域包括支援センター関原の会議室で開催)
 - 認知症カフェの会場で、医療機関の医師や看護師による個別相談やミニ講座を実施
- 【実施実績】実施回数：4回 参加者数：44名
(令和元年11月以降、毎月1回実施)



【認知症カフェの様子】

認知症や介護サービスなどについて保健師や看護師がミニ講座を実施
個別相談も実施



②担い手の役割

区民・地域	民間企業（絆のあんしん協力機関）が会場を無償提供、認知症サポーターによる運営支援
専門機関	医療機関の医師や看護師によるサポート（ミニ講座・相談）
包括・区	全体調整、事業周知

③効果

- 民間企業の協力により、経費をかけずに、地域内に身近で気軽に立ち寄りやすい交流の場をつくることのできた
- 地域における見守り体制を構築できた

④課題と今後の方向性

- 地域の協力機関が必要となる
→モスバーガーのエリアリーダーから足立区の他店舗における開催の話があるため調整を継続していく

⑤課題を踏まえた梅田地区の今後の展開

- 今後もモスバーガーカリブ梅島店と連携し、継続実施
- 地域の専門職と連携し、専門的な知見を踏まえたサポートを実施

⑥課題を踏まえた他地区での展開

- モデル事業を協力機関の具体的な取り組み事例として紹介することで、民間企業に加わってもらい、地域における認知症高齢者の見守り活動を活性化させていく

企画3 認知症の方への取組み

3-3 高齢者声かけ訓練の実施

【8】梅田八丁目アパートにおける高齢者声かけ訓練の実施

ビジョン	心身状態	自立期						要支援・軽度期						中重度・終末期					
との関係	18の柱	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱

①事業概要

- 梅田八丁目アパート住民に対し、認知症についての正しい知識の普及と理解向上のため「認知症サポーター養成講座」を実施
 - 養成講座で得た知識を基に、「認知症高齢者声かけ訓練（認知症の徘徊による行方不明者が発生したと想定し、どんな風に声をかけ対応したらよいかを訓練する）」を実施
- 【実施実績】受講者数：1日目23名 2日目23名



声かけ訓練の様子



②担い手の役割

区民・地域	訓練実施の協力（自治会長）、認知症高齢者役として劇団サロンが参加
専門機関	訓練のサポート役として地域のケアマネなどの専門職が参加
包括・区	全体調整、講座運営、事業周知

③効果

- 高齢者世帯が多い集合住宅で実施したことで、住民に対する認知症の正しい知識普及と理解向上を図ることができた
- ケアマネなど地域の専門職がサポート役として訓練に参加することで、地域の各関係機関との顔の見える関係を築けた

④課題と今後の方向性

- 当日の運営に人員を割く必要があり、包括の負担が大きい
→地域の専門機関にサポートを依頼する
- 負担軽減のために、実施手法を確立する必要がある
→モデル事業の取組みを基に、実施手順を作成する

⑤課題を踏まえた梅田地区の今後の展開

- 開催場所を変えて実施予定

⑥課題を踏まえた他地区での展開

- モデル事業の取組みに加え、帝京科学大学や伊興小学校で実施した声かけ訓練など様々なパターンの訓練内容を各包括に周知し、訓練の実施を促していく

企画4 終末期・看取りの支援

4-1 出前講座の実施 【9】ACP関連イベントの実施

※ACP：Advance Care Planning（アドバンス ケア プランニング）

自らが望む人生の最終段階における医療・ケアについて、前もって考え、医療・ケアチーム等と繰り返し話し合い共有する取組み

ビジョン	心身状態	自立期							要支援・軽度期						中重度・終末期				
との関係	18の柱	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱

①事業概要

○ACP関連イベント『「人生会議とは」～人生の終わりまであなたはどのように過ごしたいですか？～』を開催（会場：梅田地域学習センター4階ホール）

○人生会議について「行政書士・社会人落語家による落語」「高齢者劇団サロンによる寸劇」「専門職と地域住民によるシンポジウム」「医師による講義」の形式で伝えた

【実施実績】参加者数：218名 専門職数：3名

落語
「天国からの手紙」



シンポジウムの様子



②担い手の役割

区民・地域	会場設営や受付などを担当、劇団サロンとして参加
専門機関	パネリストや講師として参加
包括・区	全体調整、司会進行、事業周知

③効果

○落語や寸劇を盛り込むことで、多くの参加者を集客することができた

○参加者アンケートでは、終末期について考える良いきっかけとなったという意見が多く、自分の生き方を考える機会づくり、家族で話し合うきっかけづくり、老いへの備えの必要性を理解してもらえた

④課題と今後の方向性

○企画や準備、運営などに人員を割く必要があり、包括の負担が大きく、継続的な啓発にも向かない

→一過性のイベントではない、継続的な啓発手法を検討する

⑤課題を踏まえた梅田地区の今後の展開

○地域ケアネットワークにて区民とケアマネジャーとの交流会を行い、その中でACPに関するグループワークを実施予定

⑥課題を踏まえた他地区での展開

○モデル事業の取組みを参考とし、各地区の資源で実施できる継続的なACPの取組みを検討していく

○包括のブロック単位でのイベント開催を検討する

企画5 ICTを活用した医療と介護の情報共有

5-1 ICTツールの活用検討

【10】MCSを活用した情報共有の検証実施

※MCS：MedicalCare STATION(メディカルケアステーション)
 携帯端末やタブレット端末による完全非公開型
 医療介護専用 SNS

ビジョン	心身状態	自立期							要支援・軽度期						中重度・終末期				
との関係	18の柱	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱

①事業概要

- モデル事業検討会の医療・介護に携わるメンバーで構成するMCS導入検討会を立ち上げ、アプリ事業者によるデモンストレーションと操作説明、活用例の検討を実施
- 区の非常勤職員（在宅療養支援コーディネーター）が検証で使用する事例を作成
- 実際にMCSを使用したICTの活用による医療介護情報連携の検証を実施

【実施実績】実施事例数：2事例 専門職数：10名



②担い手の役割

専門機関	検証実施
包括・区	全体調整、事例作成、進捗管理

③効果

- MCSの使用方法を理解することができた
- 医療介護の情報連携においてMCSが有効であることを実感できた

④課題と今後の方向性

- 利用者によって、活用方法や共有する情報の範囲に差がある
- セキュリティを確保するため、利用者や使用端末などの管理が必要となる
 →運用や管理のルールを検討していく

⑤課題を踏まえた梅田地区の今後の展開

- MCS導入検討会で課題の洗い出しを実施

⑥課題を踏まえた他地区での展開

- モデル事業で把握した課題などを基に、医師会や介護事業者などの関係団体との検討を継続していく
- 多職種連携研修などでMCSについて取り上げるなど、その有用性・利便性を発信していく

企画6 地域のちからの活用による見守りの強化

6-1 「わがまちの孤立ゼロプロジェクト」の重点実施

【11】見守り活動実施の重点的な働きかけと梅田東町自治会による住民主体の定期パトロールの実施

ビジョン	心身状態	自立期						要支援・軽度期						中重度・終末期					
との関係	18の柱	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱

①事業概要

- 町会・自治会による自主的な見守り活動である「わがまちの孤立ゼロプロジェクト」の実施団体を増やすため、梅田地区の各町会・自治会や第十地区連絡協議会に伺い、見守り活動実施の働きかけを実施
 - 梅田東町自治会による住民主体の見守り会の発足支援
- 【実施実績】孤立ゼロプロジェクト結果報告会での見守り活動実施の働きかけ：2回
梅田東町会見守り会による見守り活動の実施：1回（今後年4回実施予定）



梅田東町見守り会
発足式の様子



②担い手の役割

区民・地域	団体登録、見守り活動の実施
専門機関	警察（ふれあいポリス、防犯課）の見守り活動参加
包括・区	団体登録・活動支援、事業周知

④課題と今後の方向性

- 見守り活動の実施には、活動開始のノウハウや支援が必要となる
- 絆づくり担当課及び包括による物品の提供や活動事例の紹介により、活動の立ち上げを支援する

③効果

- モデル事業開始前は、14団体中6団体の登録であったが、5団体が新たに取組みを開始した（登録割合約8割25町自連で最も高い割合）
- 見守り活動の立ち上げ準備を通じて「地域で高齢者を支えていく」という意識が定着した

⑤課題を踏まえた梅田地区の今後の展開

- 継続実施

⑥課題を踏まえた他地区での展開

- 未実施の町会・自治会への働きかけを継続する
- 活動を開始した町会・自治会の取組みを区と包括が共有し、連携を強化していく

企画6 地域のちからの活用による見守りの強化

6-3 介護施設などの高齢者と地域との交流

【12】地域の医療・介護機関が主催するイベントへの地域のふれあいサロンの参加

ビジョン	心身状態	自立期						要支援・軽度期						中重度・終末期					
との関係	18の柱	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱

①事業概要

○地域の医療法人社団（福寿会）が開催する秋の合同作品展（デイサービス及びデイケア）に梅田地域のふれあいサロンの参加

○各ふれあいサロンの作品の展示や体操教室・音楽の演奏会を実施

【実施実績】参加サロン数：6サロン

参加者数：110名（地域住民、通所サービス利用者）

展示の様子



②担い手の役割

区民・地域	展示会への参加（交流の実施）
専門機関	交流会機会及び会場の提供
包括・区	全体調整、事業周知

④課題と今後の方向性

○地域のふれあいサロン同士のつながりの創出及びサロンと介護施設などの活動のマッチングが必要となる

→包括がサロンや介護施設などの活動を把握し、マッチングを実施する

③効果

○地域で活躍する元気高齢者と介護サービスを利用する要介護高齢者の交流を図ることができた

○地域のふれあいサロンの活動を周知するとともに、サロン同士のつながりを深めることができた

⑤課題を踏まえた梅田地区の今後の展開

○継続実施 展示会以外への参加についても検討

⑥課題を踏まえた他地区での展開

○令和2年度から包括に配置した生活支援コーディネーターを活用し、地域のサロン活動と介護施設などの活動をつなげていく

企画6 地域のちからの活用による見守りの強化

6-3 介護施設などの高齢者と地域との交流

【13】中部ひまわり保育園との交流会

ビジョン	心身状態	自立期						要支援・軽度期						中重度・終末期					
との関係	18の柱	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱

①事業概要

○中部ひまわり保育園に通う園児と地域の高齢者の交流会を実施
 (包括の隣接保育園に通う子どもと包括を利用する高齢者の多世代交流)

【実施実績】実施回数：1回 参加者数：5歳児24名 保育士5名 高齢者6名
 会場：中部ひまわり保育園



【当日の様子】

包括のセンター長からあいさつ
 この後、「カプラ」というフランスの積み木遊びで交流

②担い手の役割

区民・地域	交流機会及び会場の提供
包括・区	全体調整、事業周知

⑤課題を踏まえた梅田地区の今後の展開

- 継続実施
- 高齢者の孤食対策の一環として、中部ひまわり保育園の給食を、地域の高齢者と子どもと一緒に食べる企画を予定

③効果

- 高齢者にとっても、子どもにとっても普段あまり接することがない世代の人と関わる貴重な機会となった
- 包括の近隣施設同士の顔の見える関係づくりができた

⑥課題を踏まえた他地区での展開

- モデル事業の取組みを周知し、高齢者を地域で見守る体制の構築を目指し、包括とその近隣施設との顔の見える関係づくりを促していく

④課題と今後の方向性

- 近隣施設との交流を実施するためには、互いの協力関係の構築が必要となる
- 包括の役割や活動を近隣施設に周知し、顔の見える関係づくりを進めていく

企画7 その他の取組み

7-2 栄養相談

【14】「シルバーふれあい食堂」の実施（高齢者の孤食対策）

ビジョン	心身状態	自立期							要支援・軽度期						中重度・終末期				
との関係	18の柱	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱

①事業概要

- 梅田地域学習センターとの共催による、高齢者同士と一緒に食事を楽しむ「シルバーふれあい食堂」を実施
- 「シルバーふれあい食堂」の食事は、薬膳料理を楽しむ会の講師（薬膳アドバイザー）と地域住民サポーターが調理（参加者は学習センターに申込み、食事代を支払う）

【実施実績】実施回数：4回 参加者数：64名
（令和元年10月以降、毎月1回実施）

調理の様子



薬膳料理



②担い手の役割

区民・地域	地域住民サポーターによる調理
包括・区	全体調整、事業周知、参加者調整

③効果

- 高齢者、特に男性の方が多く参加し、孤食対策事業の実施となった
- 閉じこもりぎみの女性の方が調理を手伝うことで得意分野での役割ができ、生きがいを感じる事ができた
- 薬膳アドバイザーの料理は、調味料の使用を極力減らし、食材本来の自然の味を活かしていたため、塩分摂取量など栄養面での健康への啓発が行えた

④課題と今後の方向性

- 新規の事業を立ち上げるには、包括の負担が大きい
- 調理設備が必要となる
- モデル事業のように学習センターなどの事業と連携することで実施体制を確保する

⑤課題を踏まえた梅田地区の今後の展開

- 学習センターとの共催企画として継続実施
- 包括が把握している孤立しがちな高齢者に食堂への参加を促していく

⑥課題を踏まえた他地区での展開

- モデル事業に取組みに加え、地域の栄養士ネットワークを活用した取組みを検討していく

企画7 その他の取組み

7-3 住宅相談 【15】居場所における区職員による住宅相談の実施

ビジョン	心身状態	自立期						要支援・軽度期						中重度・終末期					
との関係	18の柱	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱

①事業概要

○モデル事業の居場所「つながり処うめだ」で、区住宅課職員による住宅に関する総合的な出張相談を実施

(住宅あっせん、住宅相談、住宅に関する助成制度の紹介、公共住宅の紹介)

【実施実績】実施回数：5回 相談件数：11名



【出張相談会の様子】

個別相談だけでなく、居場所参加者との会話の中で、住宅に関する質問に対応

②担い手の役割

包括・区	相談事業、全体調整、事業周知
------	----------------

⑤課題を踏まえた梅田地区の今後の展開

○包括への出張相談ではなく、モデル事業で構築した包括と区住宅課の連携体制により、住宅相談に対応していく

③効果

○分譲マンションの管理に関する相談や戸建て住宅の解体に関する相談などについて、区で実施している具体的な助成制度や取組みを紹介し、各担当窓口につなげることができた

○包括の担当者から、実際に抱えている案件を相談されるケースもあった

⑥課題を踏まえた他地区での展開

○区が実施している具体的な制度や取組み、発行している冊子などについて、包括の担当者などに周知を図り、区住宅課との連携を強化することで、居住支援につなげていく

④課題と今後の方向性

○相談内容は、金銭的な問題や家族間の問題、生活問題など、住宅の具体的な相談以前に解決すべき問題を抱えていることが多く、住宅単独の相談は少ない

→包括で受けた高齢者の相談内容の中から、住宅に関する相談を住宅課の相談窓口につなげるルートを確立する

企画7 その他の取組み

7-4 広報チラシ作成

【16】梅田地区モデル事業広報

「65才からのいきいきうめだ暮らし」の作成

ビジョン	心身状態	自立期						要支援・軽度期						中重度・終末期					
との関係	18の柱	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱

①事業概要

- モデル事業の活動取材し、取材内容を基に広報チラシを作成
- 作成したチラシを町会や自治会、関係機関や包括への来所者へ配布

【実施実績】発行回数：5回 印刷数：各1,500部

- 第1号 住区まつりにおける健康相談（体力測定・栄養相談など）
- 第2号 劇団「うめはる」
- 第3号 高齢者の居場所「つながり処うめだ」
- 第4号 モスバーガーカリブ梅島店における認知症カフェの開催
- 第5号 ACP関連イベント「人生会議とは」

②担い手の役割

包括・区	全体調整、配布
------	---------

③効果

- 取材、チラシの作成をライターに委託したため、写真やイラストが効果的に活用され、完成度の高いチラシができた
- 地域住民の関心度は高く、ご自分が掲載されているととても喜んでいただ
- モデル事業の取組みをビジュアルで伝えることができた

④課題と今後の方向性

- 取材や構成に時間がかかるため、包括の負担が大きい
- 包括の広報作成の委託化を検討していく

⑤課題を踏まえた梅田地区の今後の展開

- モデル事業としては終了

⑥課題を踏まえた他地区での展開

- モデル事業で作成したチラシ及びチラシ作成のノウハウを周知し、広報力の底上げを図る
- 包括の広報作成の委託化を検討する



このページは
印刷不要です。